
ありがとう

翠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとう

【ZPDF】

Z0818B

【作者名】

翠

【あらすじ】

きっかけは私に向けられた友達の一言。「好きじゃよ。」

(前書き)

ちよじつとだけ実話です。

好きになるのに時間はかからなかつた。

いつも一生懸命で、さりげなく優しい彼に・・・私は気が付いてしまつた。

最初は気にしてなかつた。

でも、

友達の一言で私の心は・・・。

動き出してしまつた。

「好きらしいよ。」

そんな事言われたら・・・。

気にしなかつたものも気になるようになひやうよ・・・。

そうなると・・・

いつも何気なく一緒に帰つていた帰り道も・・・。

よく質問に来る君の一生懸命な姿も・・・。

話し方も・・・。

気になつて気になつてしかたない。

いつの間にか好きになつてる自分がいた。

友達の一言がきっかけのは本当で、それってどうのかなつて自分でも思つけど、でも好きになつてしまつたのは本当だから。この気持ちは本物だから。

今まで気についていた男子のことも全然気にならなくなつて・・・代わりに、君と田が合うとドキドキが止まらなくて。微かな喜びを感じていた。

手を振ると振り替えしてくれて、

冗談を言い合えて、
腕相撲なんかしてみたりして、
一緒に帰つて・・・
目が合う。

いつも君の瞳は痛くて。
私の恋心を甘く、切なく、痛める。

聞いてみたくなる。

「ねえ、私の事が好きって本当?」
でも、
どうしても言えない。

いつも君といふときに感じる視線があるから。
彼女の方が私より先に君の事を好きになつて、
それを私は知つていて・・・。
どうしようもない。

言えるに言えないこの気持ち。

だめだつて分かつていても

どうしても君と一緒にいたかった。

一瞬でもいいから、君と話していたかった。

彼女の視線が痛くて。

でも君を好きな気持ちも止められなくて。

彼女は言つ。
「もう好きじゃないよ。」
でも。
そんなの嘘。
知つてる。

知ってるよ。

本当は好きなんですよ？

嘘言わないで・・・。

そんな言葉を聞いたら、私の心は黒い喜びを知つてしまつよ。
じゃあ、いいの？

私が彼を好きでいてもいいの？

そんな言葉が脳裏をいつまでも回り続けてしまつ・・・。

友達は言つ。

「どっちを選ぶかはアイツ次第ですよ。」

じゃあ・・・。

好きでいてもいいの？

「好き。」

強い衝動に押されて口から転げ落ちた・・・。

「えつ？」

電話越しに聞こえる君の戸惑つた声。

不意に君の声が聞きたくなつてかけた電話。

君の優しい声を聞いていたら・・・。

思わず・・・。

私の頭は真っ白で、

言つちやつた・・・。

どうしようつ・・・。

「のー言がぐるぐるぐるぐる・・・。

「うん。うん。えと。うん。」

電話越しに聞こえる君の声はそればかりを繰り返していて。

私は今にも泣き出したい衝動を必死に抑えてて。

どっちなの？好きなの？嫌いなの？

友達から聞いた一言が本当である事を願っていた。

「えーと。うん。俺も。俺も好きです。」

やつと聞き取れた一言。

思考回路が揺らぐ。

「本当に・・・？」

信じられない・・・。

少しの期待も、言つてしまつたらあっけなく崩れ去つて。

そんな中、聞こえた君の声が信じられなかつた・・・。

「なんか、こいつのって照れるね。」

つて君の声。

そんなの・・・愛おしすぎるよ・・・。

「ありがと・・・ありがと・・・。」

私を好きになつてくれて・・・ありがと・・・。

流れた涙はほんのり温かかった。・・・。

(後書き)

読んでいただき、有難うございました。

好きな人に「好き」つていつてもらえるのって、すごく嬉しいんですね。

まだまだ未熟な物しか書けませんが、これからも頑張っていきますので、出来れば、感想などいただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0818b/>

ありがとう

2011年1月18日20時43分発行